

X X X I V F E S T I V A L F O L K L O R I C O I N T E R N A C I O N A L D E E X T R E M A D U R A

第 3 4 回 エ ス ト レ マ ド ウ ー ラ 国 際 民 族 音 楽 祭

開催地 スペイン バダホス Spain Badajoz

開催期間 2013 年 7 月 21 日 ~ 29 日

参加団体 舞鼓の会 (茨城県)

参加人数 2 4 名 (代表、サポート含む)

2013 年 7 月 21 日、東京成田国際空港より茨城県取手市を拠点に活躍中の和太鼓グループ舞鼓の会のメンバー 23 名は、スペインはバダホスという街で開催される国際民俗音楽祭に参加するべく出発しました。



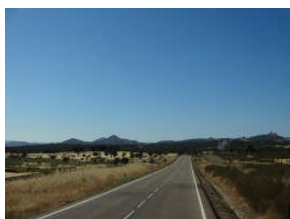
2013 年 7 月 22 日 日付が変り、未明に乗り継ぎのためドーハへ到着。

長い待ち時間と長距離飛行を経て、マドリッドへ到着するまでに 24 時間強。

マドリッドの空港にて現地のフェスティバル実行委員会から派遣されて迎えに来ていた日本チームのガイドと合流しました。

無事に届いた楽器とともにいざ、フェスティバル開催地のバダホスまでバスで移動することさらに 6 時間。

宿舎に到着した時には、きっと自宅を出発してから 36 時間も経とうかという長旅にもかかわらず、興奮と期待に胸を弾ませて眠りにつく夜となりました。



期間中の宿泊先としてお世話になるのは、大学の学生寮。一部屋につき 2~5 人部屋でシャワーとトイレは各階に設置されている共同のものを利用します。

5 つ星のホテルとはいえないまでも、今回のフェスティバルに参加している全てのパフォーマーたちが寝起きを共に出来るこの環境は、国際交流を図るコミュニケーションの場として大きな役割を担ってくれています。



期間中の食事は、他の参加者たちと共に宿舎にある学生食堂でいただきます。

朝食 9時 昼食 14時 夜食 20時

と、日本よりも少し遅い時間なのはこの時期のスペインはサマータイムで日没が午後 10 時と遅く、日中は 40 度近くまであがる気温のせいともいえるでしょう。

朝食にはハムとチーズとパンに果物とサラダ

昼食が一日のメインでお肉料理と野菜の煮物にサラダとパンやごはん

夕食には軽めのスープとサラダにパン

といった、スペインの定番メニューにベジタリアンにも配慮された料理を提供していただきました。



2013年度のエストレマドゥーラ バダホス 国際民族音楽祭参加は
アルメニア、インド、イビサ（スペイン）、トルコ、日本、パナマ、南アフリカ、
バダホス（スペイン） 7カ国、9つの地域から総勢約 300名。

今回のスペイン遠征で舞鼓の会が取り組んだのは、メイン会場のバダホス市内で週末三日間をかけて開催された国際民族フェスティバルより下記のプログラム

- ・バダホス市内パレード
- ・フォークゲームや体験ワークショップなど市民交流イベント
- ・フェスティバル会場での開会式と閉会式
- ・フェスティバル会場でのコンサート
- ・参加者全員での集合写真撮影と市庁舎表敬訪問

そのほかに、共催している近隣都市での 2 度にわたる遠征コンサートと盛りだくさんのプログラムにすべて参加していただきました。

和太鼓の野外演奏で一番心配されるのが雨。

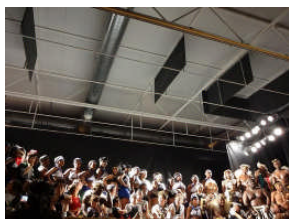
ところが、この時期のスペインは一ヶ月に一度雨が降ればいいところというほどの乾ききった気候。そのため天候の心配も全くなくすべての野外イベントを無事終えることができました。

フェスティバルの開幕を告げる市内パレードでは、初めて参加の日本チームの演奏と華やかな浴衣の衣装にカメラを向ける市民の方も多く、青空とヨーロッパの町並みに和太鼓を響かせ大いに観客を沸かせてくださいました。



海外遠征がはじめてだという舞鼓の会のメンバー。

遠征先で一緒にステージに上がった南アフリカチームの圧倒的なパフォーマンスに影響され、演奏会の最後には共にステージに上がり観客に向かって、日本語、ズールー語、スペイン語で「ありがとうございました」とパフォーマー全員で言おう！！という演出で一気に両チームの一体感が生まれ、期間を通して一番の仲よしチーム同士となりました。



フェスティバルが始まり、パフォーマー同士もスタッフともだんだんと顔を合わす機会が増えるごとに、宿舎での休み時間も、食事の時も、ステージの合間にも・・・

どこでも楽器隊のセッションやグッズの交換や写真撮影会が始まります。



始めのうちこそ恥ずかしそうな素振りが見えたものの、期間の中ごろにはあちらこちらで日本チームメンバーが輪の中心にいて身振り手振りでコミュニケーションを取り合っている！！特に子どもたちの適応能力にはいつも驚かされます。

連日、演奏開始時間が23:00、宿舎に戻るのは午前1時をまわるというハードなスケジュールにも関わらず、休む時間も惜しんで交流行事やコミュニケーションに取り組んでいる姿にフェスティバルの実行委員会からも拍手と賞賛が贈られました。

週末の3日間に渡って開催されたフェスティバルメイン会場での演奏会は音響も照明もプロフェッショナルなスタッフによる本格的なもので、色とりどりの民族衣装に身を包んだ各チームの演奏演舞は観客たちを魅了してくれたことでしょう。



今年で34回目の開催となるこのフェスティバル。

バダホスで活動している民族舞踊チームのメンバーが中心となって立ち上げた実行委員会とCIOFFスペインが協力して運営されているこのフェスティバルには、参加チームごとに2~3人割り当てられている通訳兼ガイドスタッフ、音響・照明・演出・舞台などステージ運営スタッフ、パレード、ワークショップ、フォークゲームなど課外活動運営スタッフ、宿舎での食事、清掃、警備スタッフといくつかのセクションごとに運営されている100人以上にもなるボランティアスタッフの活躍が不可欠です。

そして何より34年もの間、いかにこの町の人たちに愛されてきたのかと思いを馳せるとこの機会に立ち会えた幸せに感謝せずにはいられないのでした。





閉会式も終わり、パフォーマーもスタッフも全員参加での打ち上げパーティが盛大に開かれ最後の一瞬まで悔いの残らないように一緒に入られる時間を楽しむメンバーたち。現地のガイドさんたちや他国のメンバーたちとの別れは辛いものですが、きっとまた地球のどこかで会おうと再会を約束する姿は何度立ち会っても感動の瞬間なのでした。

Reported by IOV JAPAN 中村有紀子

** IOV (UNESCO NGO)JAPAN (ユネスコ NGO 国際民間文化芸術交流協会) **
〒537-0024 大阪市東成区東小橋1-10-3 ゴイチ駅前ビル3F

IOV JAPAN

J R大阪環状線・地下鉄鶴見緑地線玉造駅前（東側公園南隣）

TEL : 06-6981-3952

FAX : 06-6975-0323

E mail iov-japan@kmc-g.com

<http://www.iov-japan.org/>